

# 令和5年度 学校自己評価表（西武学園文理小学校）

令和6年6月

目指す学校像	「学ぶ楽しさ」を知り、豊かな知性と人間性を備えた真の国際人となるための基礎作りをする。	達成度	A	ほぼ達成(80%以上)
重点目標	「こころ」「知性」「国際性」を身につけた児童の養成を重点とした授業展開、生活指導体系を確立する。		B	概ね達成(60%以上)
			C	変化の兆し(40%以上)
			D	不十分(40%未満)

学校自己評価				学校関係者評価	
年度目標		年度評価		意見・要望など	
No.	課題項目	具体的な方策	課題項目の達成状況	自己評価	次年度への課題
1	こころを育てる	基本的な生活習慣とマナーを身につけ、挨拶や礼儀作法を徹底する	登下校時の正門での気持ちの良い挨拶を習慣化し、授業の開始、終了時はもちろん、廊下などでも積極的・自発的な挨拶を促す。	A	高学年児童が教員やお客様とすれ違うときに率先して挨拶をすることが、低学年児童への良い模範となっているので、さらに促していきたい。縦割り朝会をより一層計画的に実施し、上級学年児童のリーダーシップを育む機会を数多く持たせたい。また、引き続きペア活動を活性化することにより、思いやりや感謝の気持ち・リーダーシップ、フォローシップを育成する。登下校ルールの遵守とマナーを大切に心の醸成のため、全校朝会や学年朝会、道徳の時間等で具体的、継続的に文理小生も社会・コミュニティの一員であることの意識づけをする。学校生活全般において、ルールやマナーを守り、他者と気持ちよく共存・協働できる雰囲気づくりと、一般の方への気遣いができるように指導していきたい。
		文理小学校の一員として誇りを持って行動できる児童を育成する	本校卒業生の講話などを取り入れ、文理小学校の児童としての誇りと、先輩への憧れ、そして夢を持ち、それに向かって一層の努力をしようという意欲を育てる。教育内容の充実と、情報の開示およびわかりやすい広報活動に努め、保護者の信頼と理解を深めると共に、協力が得られるようにする。	A	中学生・高校生との交流についての年間計画を策定し、それぞれの学齢にあった形式での交流機会を増やしていきたい。また、卒業生講演会の回数を増やし、定期的に開催することで、キャリア設計への児童のモチベーションを高めたい。学外清掃や地域行事への参加などによって、地域への貢献の機会を増やし、公共へ貢献していく心の育成をはかる。
2	知性を育てる	学ぶことの喜びを体感させ、自ら学び考える習慣とグローバル社会で活躍するために必要な力を身につけさせる	体験的な学習を通して学ぶことの楽しさを体感させるとともに、基礎学力の徹底を図る。文理中学校への進学に向け十分な学力と思考力を養う。また、プレゼンテーション能力も身に付ける。	A	各教員の授業力・指導力向上のために、様々な視点からの研究・研修の機会を増やす。基礎学力の定着のために、休み時間や放課後にメリハリある補習指導(復習テスト)の機会を定期的に持つ。「表現力、プレゼンテーション能力の育成」の観点に絞った6年間の指導計画を策定する。(昨年度からの継続事項)
		小・中・高12年一貫の教育指導体制を確立する	学力向上を図るため、授業や家庭での学習指導の内容の充実を図る。チームティーチングの実施や不得意科目をもつ児童への対応を心掛ける。	B	現在算数で実施しているコース別(習熟度別)学習を参考に、他教科(英語など)においても導入することができるか検討する。
		学園の長期ビジョン・第一次中期計画を踏まえ、本校の特色を生かした小中高の一貫カリキュラムの構築を図る。	教師が相互で授業見学等を実施し、教師が指導力向上を目指して切磋琢磨する校風を育て、教師のスキルアップに努める。	A	iPadを児童が使用して授業を行うことは当たり前になってきた中で、iPadを活用することによって、児童の思考が深くなり、探究的な学びにつながるような実践を積み重ねていく。
		英語の授業や音楽・図工・体育・情報の授業の中での英語(文理イメージ授業)の充実、日常生活の中での英語表現の使用や、海外研修やインバウンド学校交流会をはじめとする外国の方々との交流や文化の相互理解等を通して、国際人としての素地を養う。	小学校保護者を対象とした文理中学説明会を開催した。また、小中高連絡会を年4回開催し、教科・分掌での情報共有に努め、小・中高の教員間の情報共有・意見交換が活発になっている。小・中間での児童・生徒が交流する行事がスムーズに行えるようになっている。	A	12年間の一貫教育をより充実させるために、各教科・分掌において一度中高6年間の学習計画を精査した上で、小中高12年間のグランドデザイン案を作成し、情報共有・共通理解を図るとともに、保護者にや外部協力機関へ適宜情報を提供する必要がある。
3	国際性を育てる	真の国際人になるための基本的な能力と広い視野を養成する	低学年児童対象のイングリッシュ・サマー・キャンプを開催し、英語力の伸長だけでなく、英語圏の文化・生活様式等について見識を深めた。インバウンド学校交流会では、来校した台湾の小学生と交流を深め、台湾の文化について知ることができた。	A	休み時間に児童が外国人英語講師と接する機会をより多く設定し、多様性尊重の心を育てていくのと同時に、リスニング力やスピーキング力のさらなる伸長をはかり、なるべくナチュラルスピードでのコミュニケーションを促していく。学年に応じてバランスの取れた4技能育成を意識した英語科指導法の検討を継続する。
		海外研修を通して、語学力の伸長や異文化理解を深める。国際交流を進める中でプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力の伸長を図る。	今年度から海外研修として、5年時の英国短期留学、6年時の米国研修を再開した。英国短期留学では、英国の生活様式を体験し、日本との比較をすることができた。米国研修では現地の小学校や中学校との交流会を通して、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を鍛えることができた。	A	海外研修にあたって、今年度実施した研修を振り返り、精査して、次年度の児童にあった研修プログラムへ更新する。海外研修のほかにも、海外の学校とオンラインで交流する機会や、インバウンド学校交流の場を少しでも多く持ち、文化交流や英語使用の実践の場を児童に提供する。低学年におけるイングリッシュキャンプ(国内/任意)を継続し、英語学習のモチベーションアップにつなげる。和食作法教室、百人一首大会、七夕飾りつけ、農業体験などを通じて、伝統的日本文化の理解を促す。
		日本で育つ者としての自己意識を確立するために、日本の伝統文化を理解し、習得するための体験学習(礼儀作法等を含む日本食の作法体験、茶道実習、書き初め、七夕飾り、おもちつき大会、百人一首大会、田植え、稲刈り、神社奉納等々)の充実を図る。	学校行事に日本の伝統文化を取り入れ、児童が体験できるように工夫した。将来国際人として活躍するには日本の伝統をしっかりと身に付ける必要があることを児童は理解した。	A	英語のシャワーをうたっている中、英語の授業数が少ないと子ども自身が感じているようだ。英語も算数のように理解度別クラス編成を希望。学校の勉強だけで5年生で英検3級に合格することが出来、英語のシャワーを実感した。「文理に行ったら日常会話(英語)は当たり前ができる」というようになって欲しい。Reading, Writingも重要なのは理解しているが、やはり小学生のうちは、Listening, Speaking, Talkingを重視して欲しい。英検の対策をさらに手厚くおこなってほしい。米国研修は、ダウンなどの防寒具を柔軟に許可して欲しい。英語のリスニングマラソンなどに活用できる家庭学習素材を複数iPad等で提示してほしい。